

避難する時の注意点

避難行動で大切なことは、冷静に行動することです。パニックに陥らないよう、何をすべきか考えておきましょう。

大雨による災害対応

■大雨が予想される場合



- 台風の接近や梅雨前線の停滞による大雨が予想される場合、気象台からの気象情報や市からの警戒情報に注意する。

■気象警報等が発令された場合

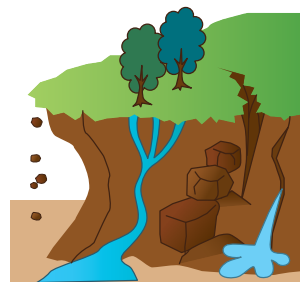
- 大雨による災害の恐れがある場合に大雨警報が発令されます。状況によっては、市から避難準備情報も発表されますので、土砂災害警戒区域や浸水想定区域内の住民は、早めの避難を検討する必要があります。
- 大雨警報が発表され、さらに土砂災害発生の危険がある場合に土砂災害警戒情報が発表されます。市からは特定の区域に避難勧告などを発令する場合がありますので、避難対象区域や土砂災害警戒区域の住民は、より安全な場所への避難が必要となります。

■避難行動

- 河川のはん濫や浸水が想定される場合は、高台などの安全な場所に避難する。
- 避難所などへ移動できない場合は、近所の鉄筋コンクリート製などの頑丈な建物に避難する。
- 避難の際は、非常持出品はリュックに入れ、ヘルメットなどを着用し、動きやすい服装で、履きなれた靴を履く。
- 浸水している場合は、棒などを使って地面を探りながら避難。
- 大雨で増水しているときは、河川や用水路を避け、安全な避難経路をとる。



- 50cm以上の水深（大人のひざ丈）で浸水が発生している場合は、無理に避難しない。



- 山などの斜面で、災害の前兆現象（斜面にひび割れが生じる。小石が落ちてくる。土のおいがする。斜面から水が湧き出る。湧水が濁る。地鳴りが聞こえる。）がみられたら、速やかに安全な避難所などに避難する。
- 土砂災害警戒区域に居住しており、避難勧告等が発令された時点で、既に大雨で避難ができない場合は、屋内でも上階の谷側に退避する。

台風・強風のとき

■屋内にいたら

窓ガラスが割れる危険性があるため、内側からガムテープを貼り、カーテンを閉める。

■路上にいたら

看板などの物が飛来する危険があるため、近くの建物に避難する。雨を伴う強風時には、地下室や地下街への避難は避ける。

■海辺にいたら

高波に巻き込まれる危険があるので、高台に避難する。